

Ⅱ 暮らしの向上

5 学びの支援

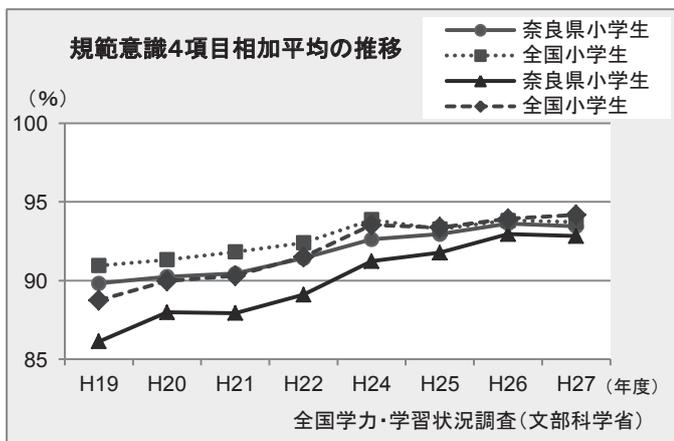
主担当部局(長)名
地域振興部長 村田 崇

目指す姿

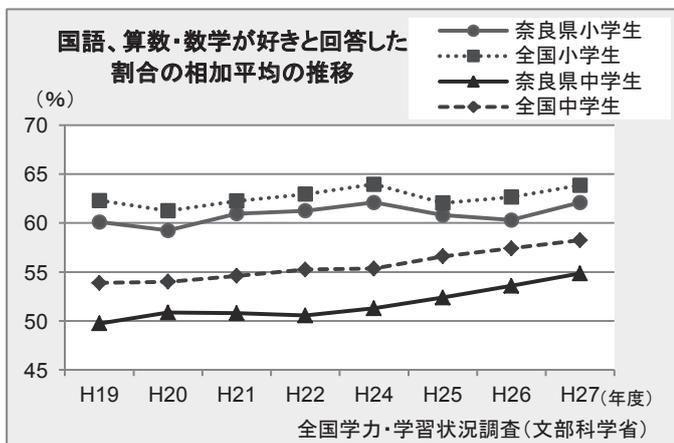
子どもの人間力を育て、社会人として親としての学びを支援し、地域の教育力の充実を図ります。また、すべての県民がいきいきと暮らすため、学び続け支えあえる地域社会を目指します。

関係部局(長)名: 南部東部振興監 山本 尚、健康福祉部長 土井 敏多、こども・女性局長 福西 清美、暮らし創造部長 中 幸司、産業・雇用振興部長 森田 康文、教育長 吉田 育弘、警察本部長 安田 浩己

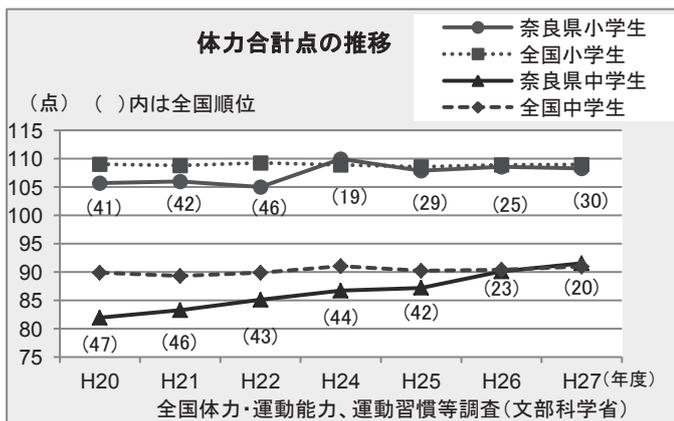
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	平成28年度までに規範意識の高い子どもの割合を全国平均以上にします。
取組	地域ぐるみで取り組む小・中・高校生規範意識醸成事業や学校・家庭・地域が協働する体制整備に取り組みました。
成果	上記のような取組等により、規範意識4項目(学校のきまりを守っている、人の気持ちがわかる人間になりたい、いじめはどんな理由があってもいけない、人の役に立つ人間になりたい)に肯定的に回答した児童生徒の割合は増加傾向にあり、全国平均との差は小学生で0.2ポイントになりました。

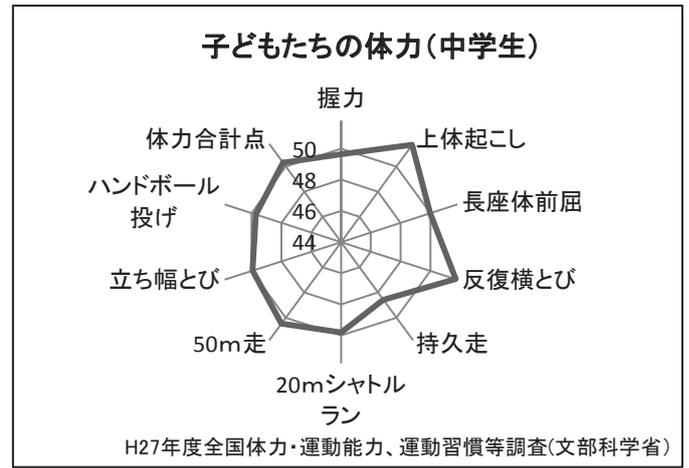
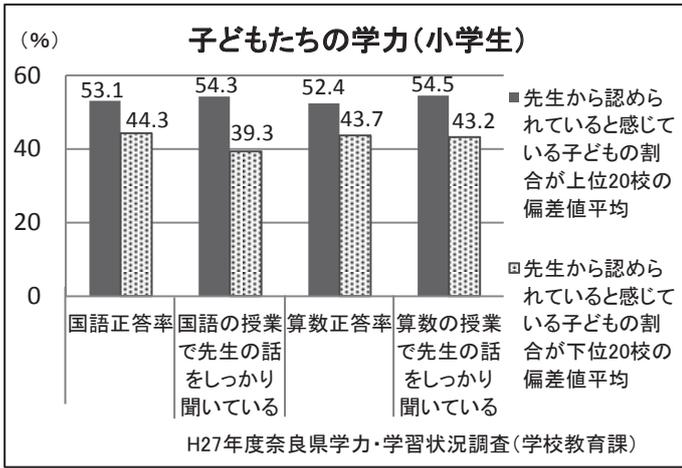


目標	平成28年度までに「教科が好きだ」と答える子どもの割合を全国平均以上にします。
取組	奈良県学力・学習状況調査の結果等から成果と課題を検証し、各学校において、児童生徒への指導の充実や学習状況の改善等に取り組みました。
成果	調査結果を検証し、学力向上のための取組に活かした結果、中学生では国語、数学が好きと回答した割合が順調に増加しています。小学生も、前年度の落ち込みから回復傾向にあります。



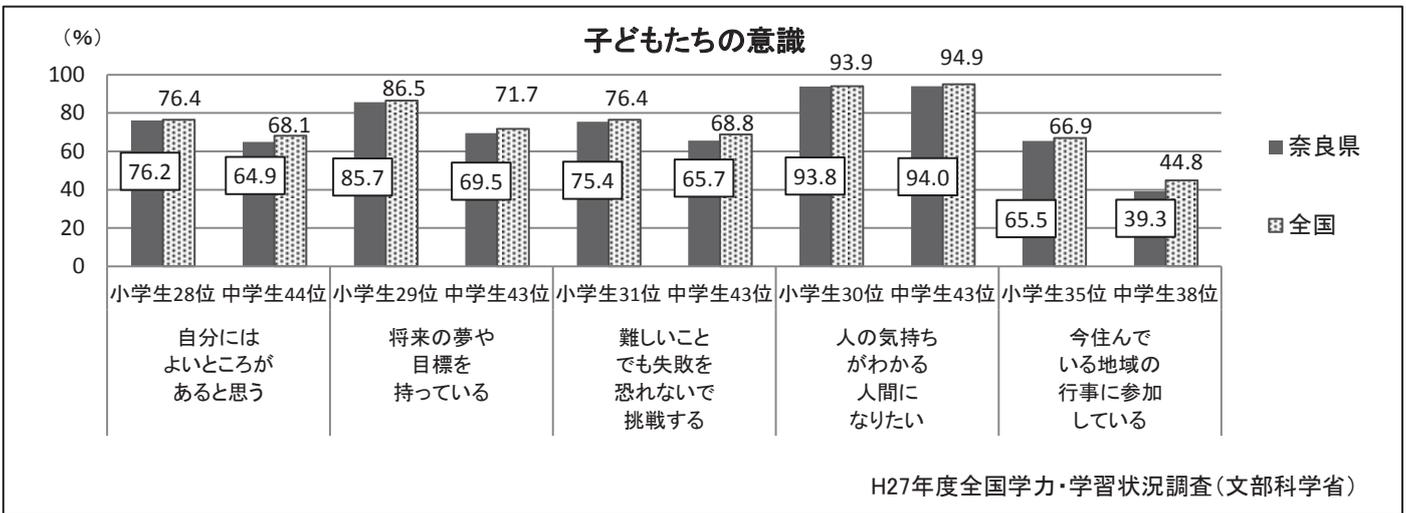
目標	平成28年度までに子どもの体力・運動能力を男女とも全種目において全国平均以上にします。
取組	幼少期からの外遊びの推奨や運動部活動の活性化等、運動習慣の確立に向けて取り組みました。
成果	各学校における体力向上推進計画の推進等、学校全体で体力向上に取り組む仕組みづくり等により、小学生・中学生の体力はほぼ全国レベルまで向上しました。特に、中学生の体力合計点の全国順位は20位になりました。

2. 現状分析

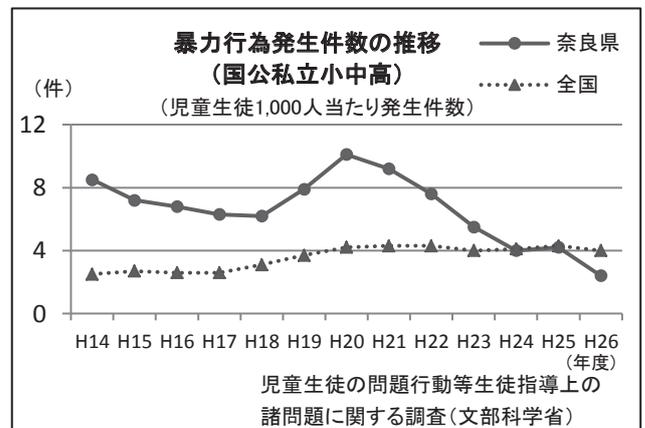
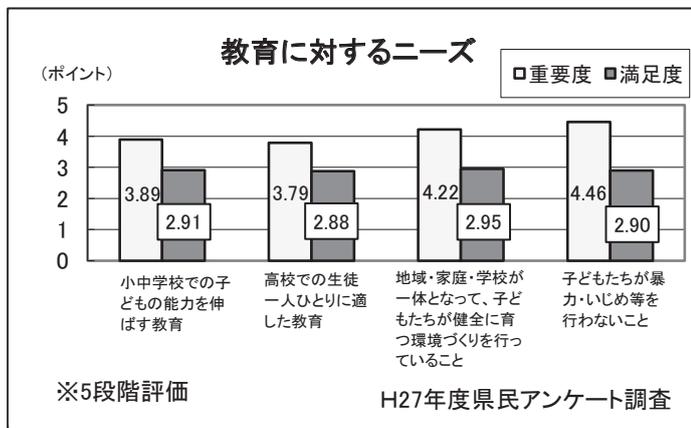


小学校4年生に実施した奈良県学力・学習状況調査の結果から、先生に認められていると子どもが感じること、子どもの学力や学習意欲には高い相関があることがわかりました。

子どもたちの体力を種目別に見ると、中学生は上体おこしや反復横とびで全国平均を大きく上回っています。



「自分にはよいところがあると思う」と回答した中学生が64.9%(全国44位)にとどまること等から、子どもたちの自尊心を育み、他者や地域との関わりに関する意識を向上させる必要があります。



重要度が比較的高い項目は「子どもたちが暴力・いじめ等を行わないこと」や「地域・家庭・学校が一体となって、子どもたちが健全に育つ環境づくりを行っていること」で、満足度はどの項目も同程度です。

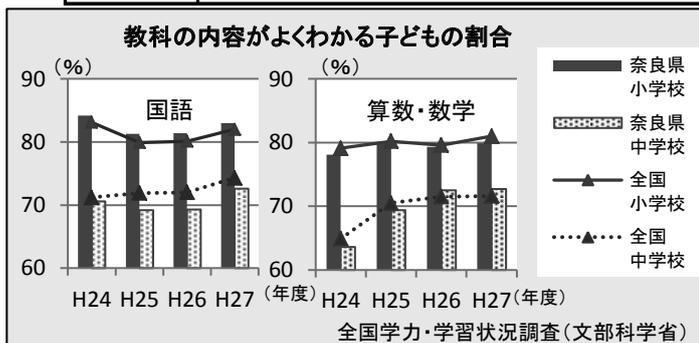
児童生徒1,000人当たりの暴力行為発生件数は、平成14年度に比べて顕著に改善し、平成26年度には全国平均を大きく下回りました。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

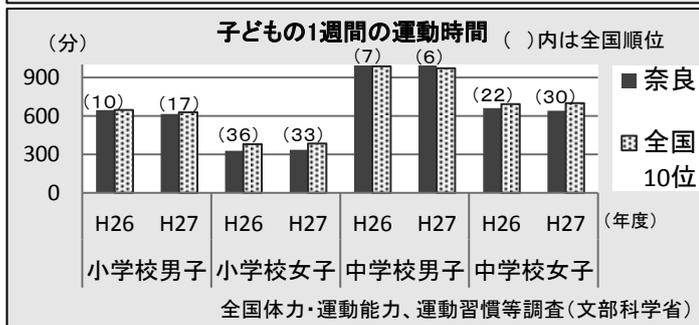
戦略1 家庭・地域・学校が協働して、子どもを自立した社会人に育てていくための取組を進めます。

主担当課(長)名 教育委員会企画管理室長 中村 昌史

戦略目標	<p>①平成28年度までに、教科の内容がよく分かる子どもの割合を全国平均以上にします。(H26年度:小学校国語81.4%〈80.1%〉、算数79.3%〈79.6%〉、中学校国語69.3%〈72.0%〉、数学72.5%〈71.5%〉) ※〈 〉内は全国平均</p> <p>②平成28年度まで、学校の教育相談体制の充実を図り、児童生徒1,000人当たりの暴力行為発生件数を全国平均以下に維持します。(H25年度:4.2件〈全国平均4.3件〉)</p> <p>③平成28年度までに、子どもの1週間の運動時間を全国10位以内にします。(H26年度:小学生男子644分〈644分〉、女子328分〈378分〉、中学校男子992分〈984分〉、女子660分〈690分〉) ※〈 〉内は全国10位</p>
------	--



取組	若手教員の研修システムの構築や、中学校区内の小・中学校合同の授業研究の推進等、学び続ける教職員を育成するために、教職員研修の充実に取り組みました。(①,②,③)
成果	子どもたちの学習意欲を高めるための教育内容の充実、指導方法の改善に取り組んだ結果、教科の内容がよくわかると回答した子どもの割合は増加しました。



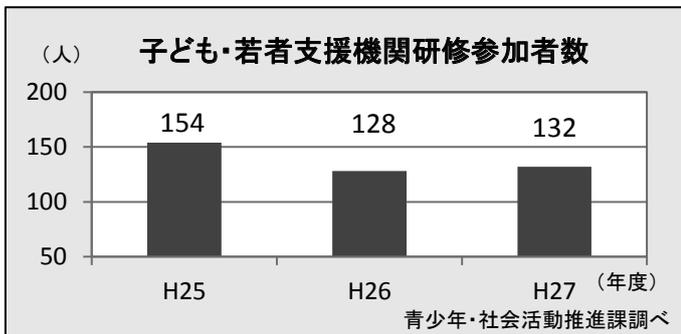
取組	幼児及び小学校低学年の児童とその保護者を対象に、幼少期の運動遊びの大切さを啓発し、楽しく体を動かしながら基本的な動きを身につける運動遊びプログラム等の取組を進めました。(③)
成果	「外遊び、みんなでチャレンジ！」等の取組により、小学校女子の1週間の運動時間は改善が見られました。取組の性質上、効果の出現に時間が必要です。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
奈良県教育の充実(①,②,③)				
「奈良県教育サミット」の開催回数(回)	—	2	3	教育振興課
学力・学習意欲、規範意識・社会性、体力の向上(①,②,③)				
「外遊び、みんなでチャレンジ！」への記録登録件数(件)	7,237	9,169	8,584	保健体育課
教員の資質の向上(①,②,③)				
教職大学院への派遣人数(人)	2	2	4	教職員課
特別支援教育の充実(①,②,③)				
個別の教育支援計画の作成率(%)	50.2	57.6	68.4	学校教育課
家庭・地域の教育力の充実(①,②,③)				
「放課後子ども教室」等開催日数(日) ※奈良市を含む	3,820	4,181	4,959	人権・地域教育課

これまでの成果

- ・新しい教育委員会制度のもと、奈良県総合教育会議を4回、奈良県教育サミットを3回開催し、知事部局と教育委員会が市町村と連携しながら、平成28年3月に奈良県教育振興大綱を策定しました。(①,②,③)
- ・教職員の資質向上に向けた取組として、教職大学院への派遣制度の改変や、若手教員育成のための研修システムの研究・開発等を進めました。(①,②,③)
- ・児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、生徒指導支援アドバイザーの派遣等の人的支援や校内研修の実施を推奨したことにより、全国平均を下回りました。(②)

戦略目標	①父親が子育てを学ぶ催しを平成27年度からの5年間に累計50回開催します。(H25年度末累計:33回) ②ニート・ひきこもり支援地域ネットワークを構築するために、子ども・若者支援地域協議会を平成28年度までに5地域に設置します。(H25年度:2地域)
------	--



取組	ニート・ひきこもり支援地域ネットワークの連携強化を図るため、子ども・若者支援機関研修を実施しました。(②)
成果	各機関の事例発表や活動紹介を主とした研修を4回開催し、市町村や民間団体関係者等、延べ132人が参加しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
若者のライフデザイン形成への支援(①)				
若者のライフデザインサポート事業参加者数(人)	—	—	117	女性活躍推進課
子育てに関する学びの支援(①)				
「なら子育て大学」「出張・なら子育て大学」講座開催回数(回)	28	23	26	女性活躍推進課
地域子育て支援拠点事業実施箇所数(カ所)	62	69	69	女性活躍推進課
ニート等の自立支援の充実(②)				
ひきこもり相談窓口の電話・来所相談延べ件数(件)	—	—	1,294	青少年・社会活動推進課
ニート・ひきこもり訪問支援事業の訪問件数(件)	208	238	264	青少年・社会活動推進課
野外活動センターの機能充実(①,②)				
野外活動センター主催事業参加者数(人)	2,456	6,259	7,037	青少年・社会活動推進課
生涯学習の推進(①)				
生涯学習情報「まなび奈良」の情報件数(件)	286	287	306	青少年・社会活動推進課
県立大学改革の推進(①,②)				
奈良県立大学公開講座の参加者数(人)	105	102	115	教育振興課
奈良県立大学シニアカレッジの参加者数(人)	—	492	647	教育振興課

これまでの成果

- ・平成27年度に父親が子育てを学ぶ催しを各市町村で57回実施しました。(①)
- ・平成27年4月から、ひきこもり相談窓口を県庁内に開設し、248人、延べ1,294件の相談がありました。(②)
- ・平成27年度に、奈良県立大学が地域貢献として公開講座を2回(115人参加)開催しました。また、シニアカレッジを奈良県立大学に加えて中南和地域においても開講し、広く県民に学習の機会を提供(647人受講)しました。(①,②)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

<政策目標達成に向けた進捗状況>
 ・規範意識に関する質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、増加傾向にあります。
 ・中学生の国語・数学が好きと回答した生徒の割合は増加し、小学生も回復傾向にあります。
 ・小学生・中学生の体力はほぼ全国レベルまで向上し、特に中学生の体力合計点の全国順位は20位になりました。

<戦略目標達成に向けた進捗状況>
 ・教科の内容がよくわかると回答した子どもの割合は増加しました。
 ・小学校女子の1週間の運動時間は改善が見られました。
 ・子ども・若者支援機関研修を4回開催し、延べ132人が参加しました。

<奈良県の持っている強み>
 1 「奈良モデル」やエビデンスベースの行政を推進
 2 保護者・地域住民が学校の教育活動を支援する体制整備は順調
 3 家庭の教育費支出が高い
 4 大学等進学率は全国平均以上
 5 暴力行為発生件数は減少
 6 子どもの体力は向上
 7 歴史文化資源が豊富であり、国宝・重要文化財の件数は全国3位
 8 県民の文化・芸術への関心が高く、文化活動の行動者率が水準

<奈良県の抱えている弱み>
 9 学習意欲が全国平均以下
 10 学習習慣が全国平均以下
 11 英語力が全国平均以下
 12 規範意識が全国平均以下
 13 地域への関わり意識が低い
 14 自尊感情が全国平均以下
 15 いじめの解消率が低く、不登校率・中途退学率が高い
 16 幼小接続が円滑でない
 17 若年無業者率や卒業後3年以内の離職率が高い
 18 非正規職員の割合が高い
 19 コンピュータ整備率が低い
 20 読書習慣が確立されていない

<奈良県への追い風>
 a 県民は「子どもたちが暴力やいじめ等を行わないこと」「地域・家庭・学校が一体となって子どもたちが健全に育つ環境づくり」を望んでいる
 b 0～4歳人口の転入超過
 c 長寿・成熟社会の到来
 d 子ども・子育て支援新制度の開始
 e 教育委員会制度の改正
 f グローバル化の進展
 g 技術革新の進展

<奈良県への向かい風>
 h 人口減少・児童生徒数の減少
 i 核家族化・子育ての孤立化
 j 南部東部地域の過疎化
 k 地域での支え合いの希薄化
 l 県民の地元への愛着度が低い
 m 小・中学校の小規模化
 n 教員の年齢構成の二極化
 o 県外就業率が高い

<<強みで追い風を活かす課題>>
[重要課題]奈良県教育振興大綱の実行(奈良県総合教育会議、奈良県教育サミットの開催)
 (1,2,3,4,5,6,a,e)
[重要課題]体力の向上(6,a,c)
 ・学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実(2,a,c)
 ・生涯にわたる学びの推進(3,8,c)

<<強みで向かい風を克服する課題>>
[重要課題]郷土教育の充実(7,l,o)
 ・へき地教育の充実(1,j)
 ・学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実(再掲)(2,i,k,o)

<<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>>
[重要課題]就学前教育の充実(9,12,16,b,d)
[重要課題]グローバル教育の推進(11,f)
[重要課題]ICT教育環境の整備(19,g)
 ・子どもの規範意識の向上(12,13,a)
 ・いじめ防止対策の推進(15,a)

<<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>>
[重要課題]実学教育の推進(17,18,h)
[重要課題]教職員の資質・能力の向上(9,10,11,12,14,15,m,n)
 ・子どもの学ぶ意欲の向上(9,20,h)
 ・社会保障教育の推進(13,k)
 ・ニート等の自立支援(17,18,k)

5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
就学前教育の充実 (戦略1)	子ども・子育て支援新制度施行等により就学前教育提供体制の充実が図られる中、その連携体制は必ずしも十分とは言えない状況を踏まえ、幼稚園・保育所・認定こども園において、公立・私立ともに幼児教育の質の充実を図るため、平成28年度より県の関係部局による連絡調整会議を設けて連携を図る等の取組を行うこととしました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
奈良県教育振興大綱の実行(奈良県総合教育会議、奈良県教育サミットの開催)(戦略1,2)	定量的なアウトカム指標を重要業績評価指標(KPI)として設定し、定期的にその進捗状況を点検・評価して奈良県総合教育会議や奈良県教育サミットに報告し、次の取組に的確に反映させるPDCAサイクルを実行します。
体力の向上(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・小学校低学年とその保護者を対象に、楽しく体を動かしながら基本的な動きを身に付けるための親子運動遊び教室を開催します。 ・「外遊び、みんなでチャレンジ！」を実施し、成果を発表する場として、「チャレンジ！運動大会」を開催します。 ・体育授業の充実を目的としたステップアップミーティング、中・高等学校体育実技指導者研修会等を開催します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
就学前教育の充実(戦略1,2)	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情や規範意識の向上を図るため、非認知的能力の育成を重視する「奈良県版就学前教育プログラム」を策定し、普及します。 ・就学前教育の部局横断的推進体制を構築します。
グローバル教育の推進(戦略1)	県内小・中・高等学校における外国語活動、英語担当教員の指導力向上のための研修を実施し、英語教育の推進を図ります。
ICT教育環境の整備(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育用コンピュータ及び校務用コンピュータについて、ハードウェアとソフトウェア両面からの整備を計画的に行います。 ・県立学校間のネットワークを活用したICT教育を推進します。 ・研修の実施により教員のICT活用能力を向上させます。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
郷土教育の充実(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高等学校において「奈良TIME」の取組を充実するとともに、その成果の発信を行います。 ・小・中学校における「郷土学習のてびき」を作成する等郷土教育の充実を図ります。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
実学教育の推進(戦略1,2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育の手引き」を作成・配布し、各校種が連携した系統的・組織的なキャリア教育を推進します。 ・インターンシップの拡大とともに、キャリア・プランナーの増員を図ります。
教職員の資質・能力の向上(戦略1,2)	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)「教員育成協議会」設立に向けて、大学、その他関係者と教職員の育成指導や資質・能力の向上について協議し、検討を行います。 ・同じ中学校区の小・中学校教員が参加する公開授業や授業研究等の研修を実施し、異校種間の円滑な接続とともに、教員の指導力の向上を図ります。